

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600179		
法人名	医療法人杏林会三股病院		
事業所名	グループホームみみつ2号館(ユニット名:千代)		
所在地	宮崎県日向市美々津町2975番地		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和4年9月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者様中心の支援を常に心がけています。 ②入居者様の意志を尊重した楽しい暮らしを支援します。 ③「我が家」として生活して頂けるような設計にし、リビングの一角にふれあいコーナーを設置。訪れてきて下さる方々との交流の場づくりを目指しています。 ④農園で四季折々の野菜を入居者様と一緒に育て収穫し調理します。 ⑤馴染みのある暮らしの継続を支援し、入居者様やご家族様の希望に応じて、看取り介護にも力を入れています。 ⑥職員は、医療や福祉の有資格者であり、資格を有さない職員は必要な研修を受講できるよう研修体系を構築しています。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は静かで落ち着いた空気が流れている。入居者にとってホームは生活の場であるということ職員が十分に理解し、静かでさりげない見守りが実施されている。コロナ禍で人との関わりが狭められる状況であっても、できる範囲で外出の支援に取り組み入居者個々の思いをくみ取ったケアに取り組んでいる。ホームでの看取りも積極的に実施し、その後の振り返りを大切に継続に向けた学びの機会を設けている。「入居者様中心の支援」という理念を職員一人ひとりが理解し、理念に基づいたケアが展開されている。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でアイデアを出し合い、一つひとつの言葉に思いを込めて理念を作り上げた。朝礼や終礼の場で理念に沿ったケアが行えているかを振り返ったり、理念は支援で行き詰った際の道標となっている。	事業所理念を玄関に掲示し、朝礼時に唱和している。毎月のケア会議において理念に沿ったケアが行われているかの振り返りを行い、理念を基に毎月の目標を設定するなど理念を意識したケアが行われるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々や保育園児との交流、コミュニティカフェの参加を計画していたが、コロナ禍にあり、交流が行えていない。防災面に関しては、地区の方々や災害図上訓練に参加する機会を頂き、少しずつ関係性を築けている。	ホームは民家や公民館が近く、散歩などを通して地域住民との関係が築かれている。現在コロナ禍の状況により実施困難ではあるが、ホームの一角を利用したコミュニティカフェの開催を計画し、より関係性を深められることを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり、感染防止の為に地域との交流が行えていない。運営推進会議録を通じて、できるだけ分かりやすく施設の情報を発信するよう心がけている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、ご家族様や推進委員の皆様には会議録を郵送や電話にて、連絡・報告を行い、頂いたご意見をサービス向上に繋げている。	コロナ禍の状況から現在は文書での会議開催となっている。会議録や資料は入居者家族全員に配布し、家族からの意見も収集できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡を取り、実情やサービスの取り組みを伝え、アドバイスや指導を頂き業務の向上に繋げている。	市の担当者とは状況の報告を行ったり、アドバイスを受けたりと良好な関係性が築かれている。感染症予防に関する物品の配布を受けたり、ホームからの質問等にも早急な返答を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員には、入職時のオリエンテーションの際に身体拘束廃止に向けた施設の取り組みを説明し、一緒に考える場を設けている。玄関は施錠せず、散歩や日光浴が行えている。	委員会を設置し、年間計画に沿って研修を行っている。職員には身体的な拘束のみならず、言葉かけに関しても拘束に繋がる根拠を示しながら指導を行い理解を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い、月1回の職員会議で日常のケアを振り返り、意見交換しながら虐待防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の制度の理解と学びまでには至っていない。今後、学ぶ機会をもち、それらを活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人、ご家族様に重要事項について説明し、理解して頂いている。又、いつでも不安や質問等について電話などでお答えし説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、面会制限が続く中、面会ブースを作って頂きたいとご家族様から要望頂いた。病院の感染対策委員会へ意見を報告し、一時面会制限が解除され、ご家族様も喜ばれていた。	面会が困難な状況から面会部屋の設置を求める意見があり、感染対策を十分に取りながら実施できるよう取り組んだ。ホームでの活動報告や意見収集などは電話やSNS、手紙を利用するなど意見収集のための工夫がされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課を行い職員一人一人の意見や困り事を聞く機会を設け、意見や提案を反映させながら各自が向上心を持ち働ける環境づくりに努めている。毎月、職員会議で出された職員の意見も反映されている。	年2回人事考課の面接を行っている。個別での面談であるため、意見が上がりやすい。管理者は勉強会の希望や業務に関して出された意見を早急に解決できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革に準じ、各自が向上心を持って働けるよう長所を見だしやりがいのある職場環境の整備に努めている。協力医療機関の計らいで、職員の腰への負担を考慮し、希望者は腰痛外来を受診する体制を整え受診した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンラインによる研修や、職場内での勉強会を開催し、職員の資質向上に努めている。今年度は、4名の介護職員が認知症介護実践者研修を受講予定。2名の職員が介護福祉士実務者研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中でのネットワークづくりは電話連絡にて行っている。系列のグループホームとは常に連絡を取り合い、互いにサービスを向上させる取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が不安なこと、困っていること等、気軽に話すことができる様な関係づくりに努めている。また、これまでどのような生活を歩んでこられたのかご家族様からも情報をいただき、安心していただけるような環境づくりにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていることや不安、要望等の心配事のある時は、電話連絡を受けている。また、ご家族様からの要望で、LINE登録を行い、いつでも連絡できる体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関や認知症専門医、ケアマネジャーとの連携を図り、必要としている支援を見極め、必要に応じて他のサービス利用の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除、調理、洗濯物干しなどの家事を共に行うなど、介護する側、される側にならないよう、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙、電話連絡を通じて、ご家族様からの連絡を受けるばかりではなく、施設側から小まめにご家族様へ連絡を行い、情報共有しながら共に支援していく者としての関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡やお手紙で、近況を知らせている。コロナ禍で関係継続支援に困難を極める中、通い慣れた場所へ車でドライブをしたり、散歩へ出かけている。	馴染みの場所へ出かけたり、人との関わりが困難な状況であるが、ドライブや散歩などを積極的に行い、「海が見たい」「自宅が心配」という入居者の希望を叶えられるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立しない様に関わり合いが持てる様に席の配置に配慮したり、入居者様同士での声かけ合いや支え合い等が自然に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様から認知症の症状に関するご相談をいただいたり、入居申し込みの相談の為来所される方もおり、継続した相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の生活の中で、入居者様の希望を聞き取っている。また、意向の確認が困難な場合は、ご家族様からも暮らしの希望について確認し、入居者様の思いにできるだけ近づけられるよう検討している。	認知症介護実践者研修受講を通して入居者の情報収集を改めて行ったり、日々の暮らしの中で聞いた、入居者本人の言葉や行動から思いをくみ取り、個々の思いに寄り添えるケアに努めている。	日々の暮らしの中で収集した入居者本人の言葉や行動を記録に残すことで、介護計画を通してさらに今後のケアに活かされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を収集したり、月1回ケア検討会を行い、職員全員での情報共有に努めている。また、不足している情報はご家族へ確認している。個別のファイルを作成しており、いつでも確認ができるように情報の整理をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が情報を共有できるように、日々の介護記録に記入し、入居者様の自立支援について職員が生活の中で考えながら、支援できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様、職員から様々な意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、新たな課題を把握したり、計画に沿った内容での介護記録に取り組んでいる。	毎月の職員会議で入居者に関する情報を共有し、介護計画の評価やモニタリングに活かしている。遠方の家族へは資料の送付や電話などを利用して説明を行い、希望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の中に、職員の気づき等を記入し、情報共有を行っている。又、共有した情報を実践し、計画の中で活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事時間を入居者様やご家族様の希望に応じて変更したり、コロナ禍で外部からの美容サービスが利用できない中、入居者様やご家族様から承していただき、施設職員が散髪支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の方々に来ていただく機会が制限されるなか、園芸や草刈りなどの屋外作業の協力を受けながら、可能な限り継続的な支援をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、協力医療機関を主治医としていた方がほとんどであり、病院との関係性も築けている。入居者様とご家族様の希望で、認知症専門医や皮膚科、眼科等へ受診している方もいる。	入居時にかかりつけ医に関する希望を確認している。協力医療機関の往診が毎月行われており、入居者本人や家族の安心に繋がっている。受診結果はその都度家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者様の状態変化を速やかに看護職員へ報告相談し、適切なケアや看護が提供できるよう、24時間体制を取りながら連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入退院時連携シートを活用し、病院との連携を行っている。入院中においても、治療期間の確認や入居者様の状態の確認を行い、スムーズな退院ができるよう関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りをお考えのかたへの施設パンフレットを基に説明を行い、施設にできる事を理解していただいた上で、入居者様やご家族様との話し合いの場をもち、意向に沿った支援に努めている。職員が終末期の看取りケアについての勉強会を行い、学ぶ機会づくりを行っている。	職員間での勉強会やマニュアルの作成、看護師や医師との連携など体制を整えて看取りを実施している。入居者家族へはホームで実施可能なこと、困難なこと、また看取りに対する思いなどを記した文書を用いて説明を行っている。看取り実施後は振り返りの時間を設け、継続して取り組んでいくための学びの機会が作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制と初期対応について体制づくりができています。施設内においても勉強会を開催し、知識や実践力を身につける為の研修計画を実行できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心として、マニュアルに沿った避難訓練の実施、病院や地域住民、消防団との協力体制を整えている。6月には、市の防災推進課の職員から地区の方々と同様に、災害図上訓練に参加し、地域の課題について知る機会となった。	地域の災害図上訓練にホームから公民館へ出向き参加した。地域の協力を得やすい環境が作られるよう取り組んでいる。今後は地域住民や消防署、地域の消防団などに参加を呼びかけ、合同での訓練を実施できるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って支援することを心がけ、又定期的に開かれる勉強会等で支援の在り方を検討する場を設けている。	ホームは入居者一人ひとりの生活の場であるということを職員が理解し、静かでさりげない支援が行われている。レクリエーションは無理強いせず、個人のペースが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に添った支援をしている。意思表示が十分できない場合であっても、焦らせることなく入居者様の思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを大切にし、レクリエーション活動にも選んで参加し、日々を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身が洋服を選び、意思表示が難しい方であっても声かけをしながら、表情の変化などから気持ちを汲み取り一緒に選ぶことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じていただけるようなメニューを取り入れたり、入居者様と一緒に畑の野菜を収穫し彩りに添えたりしている。誕生日にはリクエストメニューを取り入れた献立を作るなど支援している。	食事は毎食ユニットで作られている。職員は入居者と一緒に畑の野菜作りや収穫、調理を行い季節ものを多く取り入れている。法人内の管理栄養士から月に1回栄養面に関するアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事の支援をしている。1日の水分量を記録する水分摂取チェック表の活用や、管理栄養士が月1回訪問し、栄養バランスを改善する為の助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である、歯科の歯科衛生士が月1回訪問し、評価や指導を受けている。入居者様に歯磨きしていただいた後に、磨き残しがないか口腔状態の確認を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックシートを使用して把握している。排泄の声かけや時間、尿とりパッドの使用サイズも違う。7月には、オムツの当て方について、職員がマネキンを使用し実践型の勉強会を開催し、排泄支援について再確認した。	重度の入居者には職員が2名体制で介助を行うなど、基本的に日中はトイレでの排泄を促している。入院をきっかけにおむつ使用に変更になった入居者へは法人内の理学療法士にアドバイスを仰ぎ、ケアへ活かしながらおむつ外しが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただいたり、食事のメニューには食物繊維を多く含む食品を取り入れている。また、管理栄養士からの助言でオリゴ糖を使用したり、個々に応じた運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきとなっているが、希望する入居者様には毎日でも入浴できるようにしている。入居者様の希望に合わせた湯温の調整や好みのシャンプーを使用するなど柔軟に入浴支援を行っている。	ホームには一般浴槽と機械浴槽が設置されており、入居者の機能に応じて使用できる。毎日お湯を沸かし、季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでもらっている。こだわりのボディソープやシャンプーを使用される入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後のゆっくりとした時間や入浴後に居室で休まれる方、リビングのソファにてゆっくりくつろがれる方もいる。入居者様の思いを汲み取り、休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、内服管理チェック表を使用し、飲み忘れがないよう努めている。状態に変化がある場合看護職員へ報告し、医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度、ケア検討会を行い、入居者様の役割や支援の方法について職員間で検討している。職員が共通認識のもとで、入居者様の好きな活動、調理や掃除、散歩、畑の野菜の収穫等に参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	海岸沿いの散歩、神社への参拝、ドライブなどを行っている。コロナ禍の中、買い物や外食等には行けていない。「食べることが楽しみ」の声を聞き、リクエストのあった魚寿司や冷やし中華を取り入れ、季節を感じていただけるような取り組みを行っている。	ドライブや散歩、畑作業や神社参りなどを実施している。コロナ禍で外出が困難な中、入居者の活動が閉鎖的にならないよう、できる範囲で気分転換が図られる機会を設け、外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは職員が管理している。入居者様の買い物支援が行えていない為、職員が入居者様から頼まれた物を購入している。また、ご家族様にもおこづかい使用時は報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や父の日のプレゼントの御礼の電話をしたり、暑中暑中見舞いの葉書や年賀状を書き、近況が分かるようなやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち、不快を招かないように職員が配慮し対応している。季節感を感じることができるイベントや入居者様と壁を作ることができている。壁には職員と入居者が共同で作成した壁飾りが掲示されたり、玄関には入居者が生けた花が飾られており、季節感を感じられる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置いてテレビを観たり、一人でゆったりしたり、数人で談話したりと好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が親しんだ鏡台やベッドを持ち込んでいただいたり、ご家族様の写真を飾る等して居心地よく過ごしていただけるように、一人ひとり生活の延長線上を大事にして職員が理解し配慮している。	ベットや寝具、棚など入居者へは使い慣れたものを持ち込んでもらっている。居室の掃除は職員と一緒に入居者にも手伝ってもらい、清潔が保たれている。家族の写真の掲示など居心地の良さが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室には手摺を設置している。掲示している物は、職員目線ではなく入居者様の目線に合わせた環境になるよう配慮した上で設置している。		